

レベルアップ手話講座

聴覚・サポートかけはし

岡山県笠岡市大宜 648-27

助成事業の概要

聴覚障害児（者）に関心を持つ人たちに参加を呼びかけチラシを作成して聴覚障害者団体、ボランティア、福祉関係などに配布した。手話講師には聴覚障害者を講師に 5 月から 8 月までの 10 回の講座を行った。手話教室入門を中心に日常使える簡単な手話から地域による手話の違いやコミュニケーションをとるために復習を取り入れて行った。日常の挨拶、笠岡近隣の地名の名称、地域の名産物、数の位など作業所での活用など多くの手話を取り入れて行った。

又、手話講座には 4 回の体験講座を行った。1 回目は 78 歳で今なお現役で理髪店を夫婦で営業を行っているろうあ者の体験談。2 回目は人口内耳の子供を育てた母親の体験談。3 回目は難聴児を育てた母親の体験談。4 回目は普通小学校、高校を卒業して社会人として自立している青年の体験談を聴覚障害者の拠点施設「ふるさとの家」で行った。

事業の成果

手話は教科書での勉強より聴覚障害者と交わることで聴覚障害者の不自由さなど手話以外に学ぶことも多々あることを感じた。高齢でもある講師の巧みに動かす指の動きに感心した。ジェスチャー、身振り、表情など表現で表す手話は聴覚障害者とのコミュニケーションをとるうえでも大切であることを感じた。

・理容師のろう者の A さんの体験談では子供

の頃、近所の子供たちにいじめられ母親と一緒に死のうといわれ逃げ回ったことやろう学校での寄宿舎生活や理容師になるまでの道のり等、昔の聴覚障害者に対する差別の大きさを感じた。

- ・人口内耳の子供を育てた母親の体験談では 1 歳 4 ヶ月の時に髄膜炎になり今までしゃべっていた言葉をしゃべらなくなった母親の悲しみ。4 歳の時に音だけでも知ることができたらと人口内耳の手術を受け普通学校、大学へと進んだ息子の話など悲しみを乗り越えてきた母親の力強さと家族の結束力を感じた体験談だった。
- ・難聴児を育てた母親の体験談では言葉が遅い息子に耳が聞こえないことを知らされ当時の箱型補聴器を付けた我が子と聴脳訓練を受け普通小、中、高校に通い自立させた体験談では小学校に入学するまでには文字の読み書きができていたことが大切であることなどを話した体験談だった。
- ・その息子の難聴者の体験談は母親が基礎的なことを教えてくれたことによって現代の自分があることに感謝しながら会社に入社、倒産、就職探し、電話が使えていた聴力が落ちて電話が使えなくなっても前向きに考え、今の会社に就職して同じ聴覚障害者と結婚、二人の父親になった。聞こえる子供たちの思いや弁当の製造会社で工場長として働いている様子など聞こえる人たちの中で頑張っている体験談だった。初めての試みだったが「素晴らしい」「感動した」「聴覚障害児を育ててい

く大変さを初めて知った」「今後も協力を行いたい」というアンケートやハンディを持ちながら社会の中で頑張っている姿に涙ぐむ母親もいた。